

## 再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局環境安全課

担当課長名：池田 豊人

<p>事業名 地域高規格道路 高松環状道路  <small>えんごこうなんせん なかつま</small>                  主要地方道 円座香南線 中間工区</p>	<p>事業 区分 地方道</p>	<p>事業 主体 香川県</p>
<p>起終点 自：香川県高松市中間町  <small>たかまつしなかつまちよう</small>                  至：香川県高松市岡本町  <small>たかまつしおかもとちよう</small></p>		<p>延長 3.0km</p>
<p>事業概要 主要地方道円座香南線は、高松市円座町を起点とし、高松市香南町岡に至る延長約8.7kmの主要幹線道路である。当該箇所を整備することで、主要渋滞箇所である上天神交差点・三名交差点等の渋滞緩和、四国横断自動車道高松西ICから高松空港に至る交通の円滑化等に寄与するものである。</p>		
<p>H11年度事業化 H10年度都市計画決定 H12年度用地着手 H14年度工事着手</p>		
<p>全体事業費 157億円 事業進捗率 82%</p>		<p>供用済延長（側道） 3.0km</p>
<p>計画交通量 9,400～19,800台/日</p>		
<p>費用対効果分析結果</p>	<p>B/C (事業全体) 3.0                  (残事業) 7.0</p>	<p>総費用 (残事業)/ (事業全体) 27 / 203億円                  事業費：26/202億円                  維持管理費：1.1/ 1.1億円</p> <p>総便益 (残事業)/ (事業全体) 190 / 604億円                  走行時間短縮便益：199/ 591億円                  走行費用減少便益：-0.37/ 28億円                  交通事故減少便益：-9.2 / -15億円</p> <p>基準年 平成 26年</p>
<p>感度分析の結果                  (全体事業) 交通量：B/C=2.7～3.3(交通量±10%)                  事業費：B/C=2.9～3.0(事業費±10%)                  事業期間：B/C=3.0～3.0(事業期間±10%)</p> <p>(残事業) 交通量：B/C=6.3～7.6(交通量±10%)                  事業費：B/C=6.3～7.7(事業費±10%)                  事業期間：B/C=7.0～7.0(事業期間±10%)</p>		
<p>事業の効果等                  円滑なモビリティの確保(高松空港と高松自動車道高松西ICとのアクセス向上が見込まれる)                  国土・地域ネットワークの構築(地域高規格道路の位置づけあり)</p>		
<p>関係する地方公共団体等の意見                  県内の市町で構成する「香川県地域高規格道路建設促進期成同盟会」により、本路線の整備促進に関する要望経緯あり。</p>		
<p>事業評価監視委員会の意見                  事業を継続することが妥当である。また、暫定供用箇所の交通安全対策により一層取り組むとともに、事業の早期完成が求められる。</p>		
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等                  高松自動車道の開通状況 H13年3月：(高松中央IC～さぬき三木IC・津田東IC～板野IC) H14年7月：(板野IC～鳴門IC) H15年3月：(高松西IC～高松中央IC)が開通。これにより、高松自動車道全線開通。</p>		
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等                  事業の進捗状況 用地進捗率100% 事業進捗率82%                  残る橋梁工事等を推進し平成29年度(暫定計画)の開通を予定。</p>		
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等                  平成29年度(暫定計画)の開通を目指して、残る事業の推進を図る。</p>		
<p>施設の構造や工法の変更等                  補強土壁等の新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理を考慮した構造の採用を行いトータルコストの縮減に努めていく。</p>		
<p>対応方針 事業継続</p>		
<p>対応方針決定の理由                  以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>		
<p>事業概要図</p>		
		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。